

まちなか大学

清水希容子

一般財団法人日本経済研究所 地域未来研究センター 研究主幹

福岡の街のシンボル、九州大学箱崎キャンパスの郊外移転が、2005年から本格的に行われている。

多くの国立大学では1960年代から、設備の老朽化に加え、学生数の増加や学部・大学院施設の拡充による狭隘化などで、広い敷地を都市部で確保するのが難しく、その解決のため郊外あるいは山間部に移転した。広島大をはじめ、戦後、師範学校や高等学校、専門学校を合わせたものを母体とする大学は、旧施設を利用し続けて分散立地していたキャンパスを、大学運営の利便性から統合し郊外に移転したケースが多い。広島大は、広島市内にある数カ所のキャンパスを、中心部から東40キロの東広島市の台地に新しい地域計画のもと、まとめて移した。

同様の郊外移転組は、金沢大、新潟大、東北大など多くあり、「まちなか大学」の姿をとどめているのは、文京区本郷の東大、洛北百万編の京大、札幌駅北口の北大などがある（地図参照）。

まちなかに大学があれば、三つの「場」が生まれる。学生や教職員を主役に演じられる、教育の場、生活の場、文化の場の経済活動。さらに、市民の公園や避難場所として利用される広大で緑豊かなキャンパスの存在も見逃せない。

教育の場では、授業や研究で扱う教材、機器や道具、大学運営のための費用が生じる。生活の場として、学生の下宿やアパートの住居、飲食処、洋服店など衣食住に関する需要が発生する。まちの文化は、大学生が創ると言っても過言ではない。自由な時間を自ら管理して過ごすことのできる大学生は、アルバイトをしたり遊んだり活動範囲が広く、まちと接する時間は最も長い。

1970年代人気のフォークソンググループの

GAROのヒット曲にあるように、「学生街」には、まちの歴史と共に歩んだ学生向けの店が残り、地域の文化と商業と深く結びつく。交通の便がよく、様々な店やサービスが集まるまちなかにあってこそ、その活動はより活発となる。大学の公開授業や様々なイベントなど、市民との交流もまちなかが適している。

広大で緑豊かなキャンパスは、公園や広場として自由に利用され、建物が密集する都市においてはまさにオアシスだ。のんびりと散歩をしたり、木々の緑をながめたり、最近ではキャンパス内にあるおしゃれなカフェで語らうこともできる。東大の本郷キャンパスは、昼間は一般に開放され、市民に貴重なやすらぎの場を提供している。同時に、災害時の避難場所として大きな役割を果たしている。こうしたことから、最近、郊外から都心回帰している大学も始まった。

山口経済研究所では、山口県下関市に立地する五つの大学の経済効果を算出したレポートを今年1月に発表した。自宅生・下宿生、留学生の生活費、教職員の人件費、大学運営費から、毎年102億円もの大きな経済効果を地域にもたらすとはじきだした。調査研究部長の宗近孝憲氏は、「学生の生活費は、住宅賃貸料が最も多く、次に商業、飲食となっている。大学がまちなかにあることの意義は大きい。」と語る。

「まちなか大学」は、地域の未来の原動力である。

お知らせ：「日経研のご当地プレート」サイト開設



街のおしゃれな原付ナンバープレートを一挙掲載した初の専用サイトです



まちなか大学



市民のオアシス

郊外移転した大学

ゴシック、数字は移転年
C：キャンパス

鳥取大
鳥取市(立川地区、吉方地区)
→鳥取C)1966

新潟大
新潟市(旭町・西大畑地区他)
→五十嵐C)1972~82

北海道大

島根大 京都大 **金沢大**
金沢市(城内C→角間C)1989~95
岡山大 神戸大 金沢市(小立野C、宝町C→角間C)2004~05

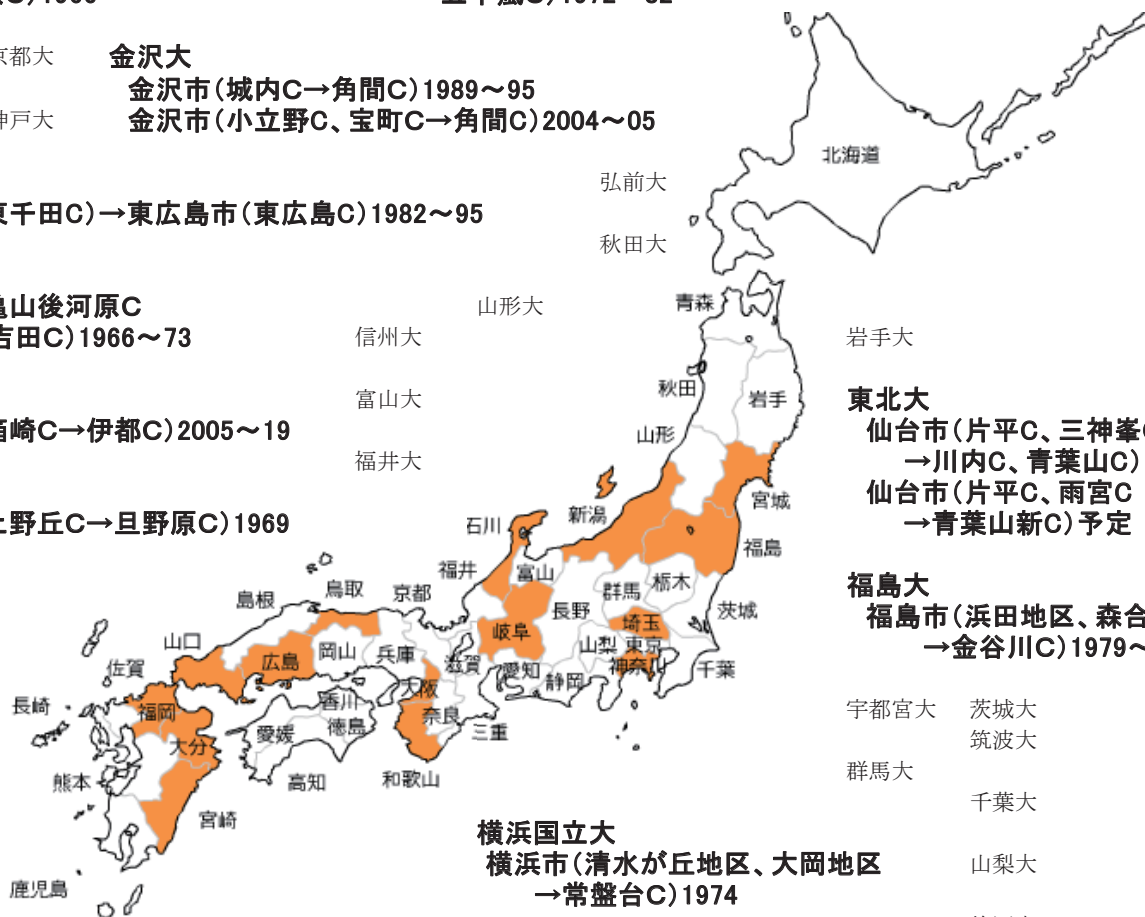
広島大
広島市(東千田C)→東広島市(東広島C)1982~95

山口大
山口市(亀山後河原C)
→吉田C)1966~73

九州大
福岡市(箱崎C→伊都C)2005~19

大分大
大分市(上野丘C→旦野原C)1969

佐賀大
長崎大
熊本大
鹿児島大



宮崎大
宮崎市(船塚・霧島地区)
→木花C)1984~88

岐阜大
各務原市(那加C)、岐阜市(長良C)
→岐阜市(柳戸C)1981~83
岐阜市(司町C→柳戸C)2004

埼玉大
さいたま市(北浦和地区)
→下大久保C)1964~69

愛媛大
高知大

香川大
徳島大

滋賀大

名古屋大
三重大

東京大

和歌山大
和歌山市(真砂C、高松C→栄谷C)1985~87

大阪大
大阪市(中之島地区)
→吹田市(吹田C)、豊中市(豊中C)1967~93

琉球大
那覇市(首里C他)→西原町(千原C、上原C)1977~84

*掲載は、国立の総合大学
*文部科学省、各大学 HP、聞き取り調査等をもとに(財)日本経済研究所にて作成
*当地図は、地域未来研究センター「地域データ図書館」のホームページにて拡大してご覧になれます